

小学校第4学年 社会科 学習指導案

期 日 平成29年2月17日(金)第2校時
場 所 山鹿市立山鹿小学校4年2組教室
指導者 教諭 木村 綾児

1 単元名「わたしたちの県のまちづくり」(教育出版)

(副読本『わたしたちの熊本(下)』「8 わたしたちの熊本県」「2. ゆたかな自然を生かすまち」「3. 伝統や文化を生かすまち」)

2 単元について

(1) 単元観

本小単元は、第3学年及び第4学年学習指導要領の内容(6)「県(都、道、府)の様子について、次のことを資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、県(都、道、府)の特色を考えるようにする。」のウ「県(都、道、府)内の特色ある地域の人々の生活」を受け設定されている。ここでは、県内の様子について学習する際に、県内の特色を考える手掛かりとして、「県内の特色ある地域の人々の生活」を調べる対象として挙げ、自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域やそこに見られる人々の生活の特色を具体的に調べる活動を行う。これらを受け本小単元では、「県内の特色ある地域」を「ゆたかな自然を生かすまち」と「伝統や文化を生かすまち」に分類する。「ゆたかな自然を生かすまち」については、昔ながらの製法で銅銭糖を作っている「大津町」を取り上げ、「伝統や文化を生かすまち」については、八代妙見祭の継承と活性化に努めている「八代市」を取り上げて学習することにする。本小単元で取り上げた地域の学習を行う中で、熊本県には様々な特色を生かした地域があり、その特色を生かしながら、人々は工夫して生活していることを捉えさせたり、熊本県に対する誇りと愛情、地域社会の発展を願う態度を育てたりすることができる単元である。

このような学習を通して、自分たちが住む熊本県の自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域やそこに見られる人々の生活の特色やよさについて考えさせることは、「よりよい考えを創り出す力」という資質・能力の獲得にもつながり、本校の学校教育目標の「気づく子どもの育成」及び目指す子ども像「いい声 いい顔 いい心」の実現につながるものであると捉える。

(2) 系統観

第3学年及び第4学年(4月)	第3学年及び第4学年(1月)	第5学年(4月)	第6学年(2月)
「わたしたちの大好きなまち」 自分たちの住んでいる身近な地域や市(区、町、村)について、次のことを観察、調査したり、白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えよう。	「わたしたちの県のまちづくり」 県(都、道、府)の様子について、次のことを資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、県(都、道、府)の特色を考えるようにする。	「わたしたちのくらしと国土」 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えよう。	「世界の中の日本」 世界の中の日本の役割について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において

(3) 児童観

本学級は、男子15名、女子16名、計31名である。実態調査を行った結果、「社会科の学習が好きか」という質問に関しては、好き(15名)、どちらかというが好き(16名)であった。理由としては、「知らないことを知ることができるから」「見学旅行に行けるから」「地図帳を使って調べることが楽しいから」が多かった。また、「社会科の学習は得意か」という質問に関しては、得意(7名)、どちらかという得意(18名)、どちらかという得意ではない(6名)であった。得意ではないという理由としては、「テストの得点が上がらないから」「覚えられないから」「メモのとり方や説明の仕方が分からないから」が多く、知識・技能及び表現に関して苦手意識を持っていることが分かる。さらに、学習方法に関しては、「見学や体験」「調べ学習」「話し合い」を好んでいる傾向にある。一方、調べたことや考えたことを発表することはあまり好んでいないと分かった。これからの社会に求められる資質・能力である「よりよい考えを創り出す力」を身に付けさせるためにも、児童が自信を持って発表できるようにするとともに、

互いの考えを練り上げたり、新しい価値を創造したりすることができるような話し合い活動にしていく必要がある。

(4) 指導観

○児童が学習に対して意欲的に取り組むことができるようにするため、児童が好んでいる「見学や体験」「調べ学習」「話し合い」を多く取り入れる。しかし、大津町や八代市の場所を考慮すると「見学や体験」は困難である。そこで、ビデオ映像を視聴させたり、実物を見せたりすることで、疑似体験をさせる。
 ○土地の様子を視覚的に捉えさせたり、地域の特色を生かしたまちづくりを行っていることに気付かせたりするために、地図や地形図、ICT機器などの効果的な活用を図る。また、人々が工夫して生活している様子について、実感を伴った理解ができるよう、GTを積極的に活用する。
 ○継承、発展など、「時期や時間の経過」の視点と願いや協力など、「事象や人々の相互関係」の視点を組み合わせた「問い」を設定し、それぞれの視点をくらべる、つなげる、まとめるという方法を用いて考えたり対話させたりすることで、よりよい考えを創り出す力を育成する。

<p>学びを引き出す 学習活動を生む 「問い」の工夫 (言語活動の充実)</p>	<p>①熊本県の都道府県魅力度ランキングの順位を伝え、熊本県の魅力を伝えようとする思いを持たせる。また、前小単元「県の地図を広げて」に引き続き、「熊本県をしょうかいするパンフレットを作る」という活動を位置付けることにより、学習の見通しを持たせる。 ②継承、発展など、「時期や時間の経過」の視点と願いや協力など、「事象や人々の相互関係」の視点を組み合わせた「問い」を設定し、それぞれの視点をくらべる、つなげる、まとめるという方法を用いて考えたり対話させたりすることで、よりよい考えを創り出す力を育成する。</p>
<p>学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り</p>	<p>③思考ツールとして、Yチャートと付箋を活用する。様々な立場の人の思いを付箋に書き込み、Yチャート上で自由に動かしながら対話させることで、思いの相違点や共通点を視覚的に捉えられるようにする。 ④学習内容だけでなく、学習方法や資質・能力に関する振り返りを行わせることにより、学び方の習得及び資質・能力の自覚化を図る。</p>
<p>学びを支える 学びのUD化とICT の活用及び支持的風土</p>	<p>⑤ICT機器を活用することにより、特色ある地域の土地の様子を的確に捉えたり、考えの共有化を図ったりすることができるようにする。 ⑥よりよい学校や学級づくり等に関して、自分と友達のことを比べながら聞いたり、みんなでアイデアを出し合ったりする活動を通して、日常的にも「よりよい考えを創り出す力」の育成に努める。</p>

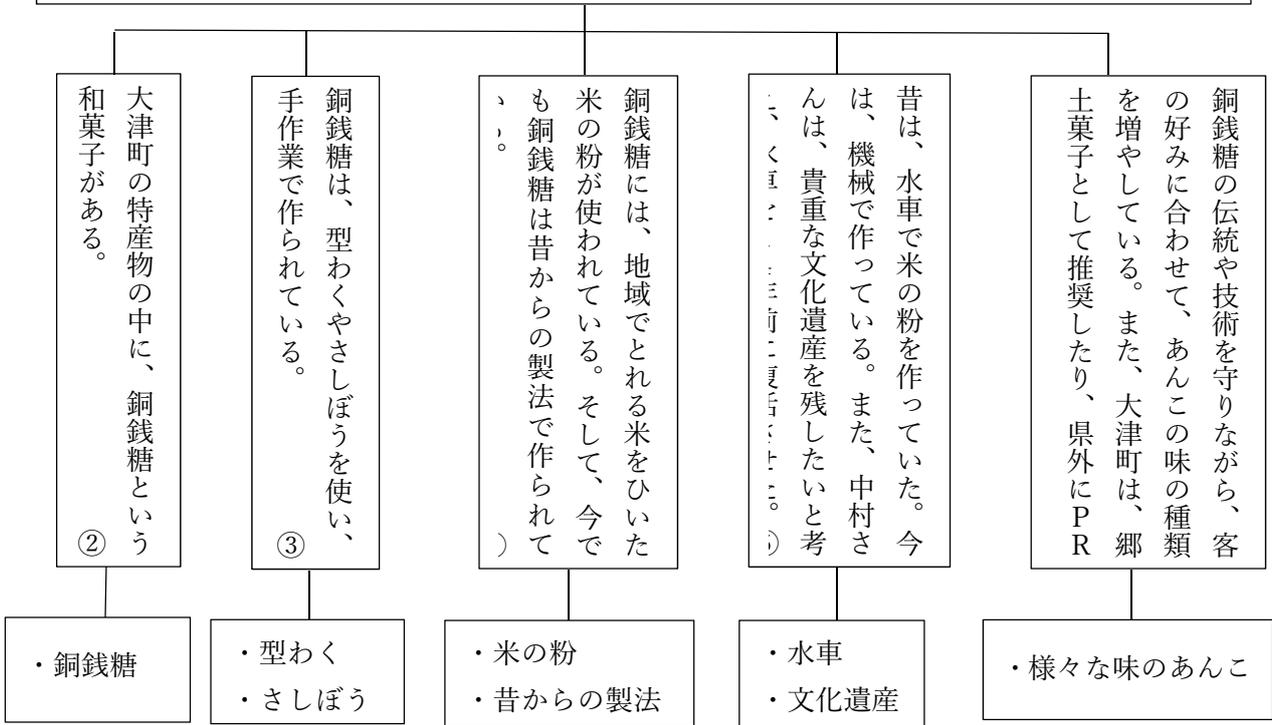
3 単元の目標と評価規準

<p>単元の目標</p>	<p>昔からの製法で銅銭糖を作っている大津町や八代妙見祭の継承と活性化に努めている八代市の取組や人々の生活の様子をインターネットや副読本、パンフレットなどの資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、熊本県の特色やよさを考えることができる。</p>		
<p>社会的事象への 関心・意欲・態度</p>	<p>社会的な 思考・判断・表現</p>	<p>観察・資料活用の 技能</p>	<p>社会的事象についての 知識・理解</p>
<p>①熊本県内の特色ある地域の様子に関心を持ち、意欲的に調べている。</p>	<p>①熊本県内の特色ある地域の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ②熊本県内の地域の特色を相互に比較して、熊本県の特色を考え適切に表現している。</p>	<p>①地図やインターネット、副読本を活用して、熊本県の様子について必要な情報を集め、読み取っている。 ②調べたことを白地図やノート、作品などにまとめている。</p>	<p>①熊本県内の特色ある地域の人々の生活の様子を理解している。</p>

4 教材構造図（図中の数字は、学習活動の時数を表す。）

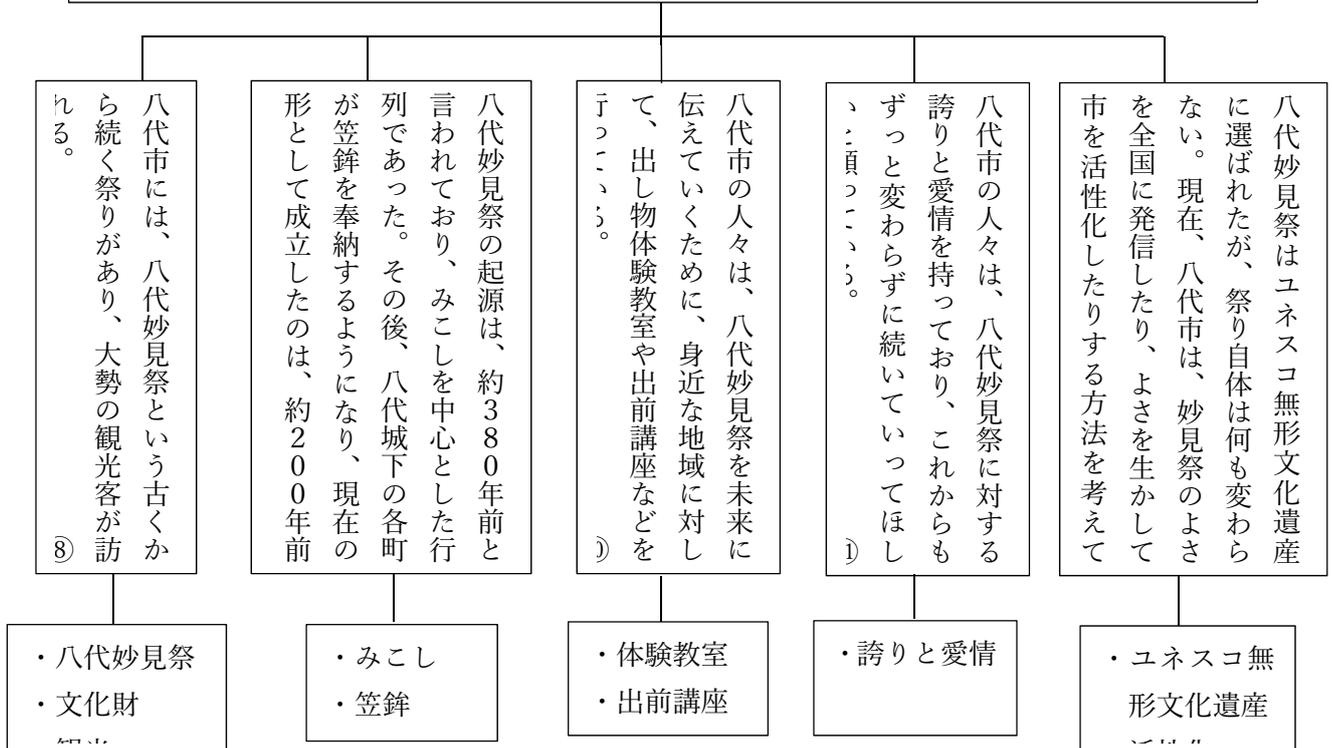
(1) 「2. ゆたかな自然を生かすまち」

熊本県の大津町では、自然を生かした銅銭糖作りが行われている。人々はその伝統や技術を守りつつ、協力して、地域のよさを生かしたまちづくりに取り組んでいる。 ⑦



(2) 「3. 伝統や文化を生かすまち」

熊本県の八代市は、八代妙見祭を継承しているだけでなく、昔から受け継いできたよさを未来に伝え、特色のあるまちづくりに生かそうとしている。 ⑧



5 指導計画（13時間取扱い 本時 11/13）

単元を貫く問い：熊本県をしようかいするパンフレットを作ろう

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一 熊本県の魅力	1	1 熊本県内の知っている場所や有名な物について話し合う。	【関心・意欲・態度】①：発言 【学びを引き出す】 ①熊本県の都道府県魅力度ランキングの順位を伝え、熊本県の魅力を伝えようとする思いを持たせる。また、前小単元に引き続き、「熊本県をしようかいするパンフレットを作る」という活動を位置付けることにより、学習の見通しを持たせる。
二 ゆたかな自然を生かすまち	1	2 山鹿ようかんと銅銭糖を比べ、学習問題を作る。	【思考・判断・表現】①：ノート 【学びを引き出す】 ①自分たちが住む地域と他地域の特産物を比べる活動を通して、学習意欲を喚起する。
	1	3 銅銭糖の歴史や作り方について調べる。	【技能】①：観察・ノート 【学びを振り返る】 ④学習方法に関する振り返りを行わせることにより、学び方の習得を図る。
	1	4 地図や航空写真などを基に大津町の土地の様子を調べ、銅銭糖作りとの関わりについて考える。	【知識・理解】①：ノート ⑤ICT 機器を活用することにより、大津町の土地の様子を的確に捉えることができるようにする。
	1	5 米の粉の作り方や水車のことについて調べる。	【技能】①：観察・ノート 【学びを振り返る】 ④学習方法に関する振り返りを行わせることにより、学び方の習得を図る。
	1	6 銅銭糖作りの技術や伝統を守るための工夫や努力について調べ、銅銭糖に込められた思いについて考える。	【思考・判断・表現】②：ノート 【学びを引き出す】 ②継承と人々の願いの視点を組み合わせた「問い」を設定し、それぞれの視点をくらべる、つなげる、まとめるという方法を用いて考えたり対話させたりすることで、よりよい考えを創り出す力を育成する。 【学びを振り返る】 ④学習内容だけでなく、学習方法や資質・能力に関する振り返りを行わせることにより、学び方の習得及び資質・能力の自覚化を図る。
	1	7 熊本県をしようかいするパンフレット（大津編）を作成する。	【技能】②：パンフレット 【学びを引き出す】 ①熊本県をしようかいするパンフレット作り（大津編）に取り組みさせることで、大津町に関する既習内容を生かした主体的な学びを促す。

三
伝
統
や
文
化
を
生
か
す
ま
ち

1	8 山鹿灯籠祭りと八代妙見祭を比べ、学習問題を作る。	<p>【思考・判断・表現】①：ノート</p> <p>【学びを引き出す】</p> <p>①自分たちが住む地域と他地域の祭りを比べる活動を通して、学習意欲を喚起する。</p>
1	9 八代妙見祭の成り立ちや歴史について調べる。	<p>【技能】①：観察・ノート</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>④学習方法に関する振り返りを行わせることにより、学び方の習得を図る。</p>
1	10 八代妙見祭を継承するための取組について調べる。	<p>【知識・理解】①：ノート</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>④学習方法に関する振り返りを行わせることにより、学び方の習得を図る。</p>
1 本時	11 八代妙見祭に込められた人々の思いについて考える。	<p>【思考・判断・表現】②：ノート</p> <p>【学びを引き出す】</p> <p>②継承と人々の願いの視点を組み合わせた「問い」を設定し、それぞれの視点をくらべる、つなげる、まとめるという方法を用いて考えたり対話させたりすることで、よりよい考えを創り出す力を育成する。</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>③思考ツールとして、Yチャートと付箋を活用する。様々な立場の人の思いを付箋に書き込み、Yチャート上で自由に動かしながら対話させることで、思いの相違点や共通点を視覚的に捉えられるようにする。</p>
1	12 八代妙見祭のよさを生かし、八代市がどのようなまちづくりを目指しているか考える。	<p>【思考・判断・表現】②：ノート</p> <p>【学びを引き出す】</p> <p>②発展と協力の視点を組み合わせた「問い」を設定し、それぞれの視点をくらべる、つなげる、まとめるという方法を用いて考えたり対話させたりすることで、よりよい考えを創り出す力を育成する。</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>④学習内容だけでなく、学習方法や資質・能力に関する振り返りを行わせることにより、学び方の習得及び資質・能力の自覚化を図る。</p>
1	13 熊本県をしようかいするパンフレット（八代編）を作成する。	<p>【技能】②：パンフレット</p> <p>【学びを引き出す】</p> <p>①熊本県をしようかいするパンフレット作り（八代編）に取り組ませることで、八代市に関する既習内容を生かした主体的な学びを促す。</p>

6 本時の学習

(1) 目標

八代妙見祭の成り立ちや妙見祭を継承する取組について調べたことを基に、八代妙見祭に込められた人々の思いについて考えることができる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	1 前時までの学習を振り返り、めあてを確認する。 本時の目標 (めあて) <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">八代妙見祭に込められた人々の思いについて考えよう。</div> 2 [本時の問い]について考え、話し合う。	○八代妙見祭の成り立ち(戦後、途絶えそうになったことを含む)や妙見祭を継承する取組について振り返る。 徹底指導 (ポイント) ○保存会、祭りを行う人、市役所など、様々な立場の人たちが妙見祭を継承する取組を行っていることを確認する。	掲示物 電子黒板 それぞれの立場の人の写真
[本時の問い] なぜ、八代市の人々は、八代妙見祭を受け継ぐ取組を続けているのだろうか。			
展開 30分	(1) 個人で考える。 (2) 班で話し合い、それぞれの立場の人の思いを比較・関連付ける。 (3) 班の意見を発表し、学級の意見をまとめる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">【言語活動】(設定の意図) 八代妙見祭を継承するための取組を基に、八代妙見祭に対する人々の思いを関連付けながら考えたり、話し合ったりする活動を通して、思考力・判断力・</div> 3 GT (保存会会長) の話を聞く。	【学びを引き出す】 ②継承と人々の願いの視点を組み合わせた「問い」を設定する。 ○保存会、祭りを行う人、市役所の立場に立ち、それぞれの思いについて考えたことを付箋に書かせる。班活動では、付箋を活用し、比較したり関連付けたりしながら話し合わせる。 能動型学習 (ポイント) ○Yチャート上で付箋を動かしながら、思いの相違点や共通点について話し合わせることで、対話の活性化を図る。 【学びを振り返る】 ③思考ツールとして、Yチャートと付箋を活用する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">評価：思考・判断・表現(ノート・発表) B基準八代妙見祭の継承や周知の視点から考え、表現している。</div> A基準 B基準に加え、八代妙見祭に対する誇りや愛情の視点から考えている。 <B基準に達していない児童への手立て> ○銅銭糖作りに携わっている人々の思いを想起させる。 ○GTには、児童の発言を受けた話及び児童が新たな価値観を獲得するような話をしていただく。	付箋 Yチャート
整理 10分	4 学習したことをまとめる。 5 学習したことを振り返る。	○まとめに関しては、話し合いやGTの話を踏まえての学習課題に対する最終的な考えをまとめさせる。 ○振り返りに関しては、資質・能力の観点から、「自分の考えが最初と比べてどのように変わりましたか」と指示する。	

